

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

Table with 4 columns: 事業所番号 (0173200585), 法人名 (有限会社 美深シルバー支援), 事業所名 (グループホームびふか(つつじ)), 所在地 (中川郡美深町字南町25番地), 自己評価作成日 (令和5年9月15日), 評価結果市町村受理日, 令和5年12月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

国道から入った田圃の中にあります。敷地内で野菜などを栽培しています。収穫された野菜や季節に合わせた魚なども取り入れ、手作りの食事を提供し、食卓でも季節感を感じられるようにしています。住み慣れた地域で入居者様本位の自由な暮らしができるよう支援しています。入居後も毎月のお便りで入居者様の生活や変化をご家族に感じてもらうよう配慮しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: 基本情報リンク先URL, https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0173200585-00&ServiceCd=320&Type=search

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 3 columns: 評価機関名 (特定非営利活動法人 福祉サービス評価機構Kネット), 所在地 (札幌市中央区南6条西11丁目1284番地4 高砂サニーハイツ401), 訪問調査日 (令和5年10月6日)

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

1) 事業所の基本事項：町中心部から車で数分の田圃地帯の一角に立地している。幹線道路に程近く、近隣には病院やコンビニ、スーパーがある生活・交通に至便な環境となっている。
2) 職員の介護への基本姿勢・態度：職員は管理者を中心に事業理念を介護の基本として研修を重ね、利用者の安心・安全・家族の信頼関係維持に努めて、真摯に介護に専念している。
3) 家族の介護支援への好感等：家族は代表、職員が利用者・家族の声を受け止め、理解して柔軟な介護の対応姿勢に高い好感を寄せている。
4) 運営推進会議開催状況：家族、地域関係者、地域包括等の参加・協力を得て、定例開催。資料を基に運営状況を説明して、参会者の意向を運営に反映するように努めている。
5) 自治組織・機関等の連携：現状でまだ自粛傾向にあるが、通例では施設・地域行事や災害時の地域との相互の協力と参加があり、連携と役割を担っている。5類への緩和を機に、改めて地域との関係再構築に向け、取り組んでいる。成果に期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印), 項目, 取り組みの成果 (該当するものに○印). Rows 56-62 contain evaluation criteria and results for various service aspects.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念は常に見える場所に掲げており、職員が常に意識できるようにしている。職員会議等において理念に基づいた支援を行なうことができるようその都度、確認している。	理念を目立つ場所に掲示し、日常的に共有している。理念通りのケアが出来ているか定期的に職員会議、研修の場で検証、協議しながら実践に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩や外出先などで、地域の人や知人に会い、挨拶やお話をしている。	相互の自粛傾向の中、事業所の近況の周知等、関係維持について職員間で協議しながら、相談に応じたり、日常的な挨拶等で地域交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会などでは地域の方を招待して交流を図り、理解していただいている。現在は、感染症予防のため行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に会議を行い、関係者の参加を頂き、日常的な取り組みや状況について報告し、話し合いながら質の向上を目指す機会としている。	運営推進会議には、行政や包括、民生委員、特養ホーム職員等の参加協力を得て、2ヶ月ごとに定例開催している。行事内容や待機数、デイの参加状況から福祉的な課題まで話し合い、今後のサービス向上に繋げている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	必要に応じて、町の担当者と連絡を取りサービス向上につながるよう努めている。	行政窓口とは、各種の情報交換や地域的な支援体制の問題で連携して役割を担っており、地域高齢者や事業所の状況について、窓口と情報交換を行っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員の見守りの徹底や状況に応じてミーティングを行うなど身体拘束のないケアの取り組みをしている。	身体拘束廃止委員会を設置し、定例で開催、内容について職員に周知している。全利用者の現状の確認と不適正ケアの事例検討や拘束の予防方法等々、研修を行いながら拘束虐待等はあってはならないケアとして認識、確認している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日の生活の中で入居者を怪我などから守っているつもりでいることが虐待につながらないよう入居者の言葉等に気を配り防止に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度の理解ができるよう、研修会資料などの閲読や関係者との話し合いなどこれらを活用できるよう努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間を取って丁寧に説明している。家族の不安や思いも傾聴し、理解、納得を得るよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会、訪問時にいつでも利用できるように玄関に苦情ポストを設置し、それを告知するため口頭、文章で説明している。また、必ず見送りをするなど、話しやすい場面を作る取り組みをしている。	主に来訪時に家族の意見、要望を聞き取り、会議の場で検討して運営やケアプランに反映している。お便りの他、電話、面会等、柔軟に情報交換の場を設定し、意見を得ている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の申し送りやミーティングで、職員からの意見や提案を聞く機会を設けている。必要時には個別面談の機会を設けている。	日々の申し送りや連絡ノートを活用し、職員との意見交換や提案を受け、運営に活かしている。また、代表者が面談を行い、個別の意向、提案の聞き取りを行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の生活背景を理解し、勤務時間の調整や就労環境の調整に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナ感染症により、外部研修が少なく、情報提供を行なうことがあまりできていない。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	感染症予防以降、研修会や交流等はできていません。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に本人・家族と来所して頂き、中の様子や居室を見ていただき本人の要望、家族の思い等を受け止める努力をしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に、家族の不安や要望等の思いを気兼ねなく話せる場をつくり、良好な関係構築に努めている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	在宅時の本人の様子や家族の関わり、不安などの状況を確認し、本人の本来の生活に近づく支援や必要なサービスにつなげるようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	経験豊富な人生の先輩であるという考えを職員が共有していて、利用者からの教えも多く、お互いが協働しながら和やかな生活が出来るよう場面づくりや声かけをしている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者のホームでの生活がわかるように家族が来たときは利用者と一緒に話したり、月に1回利用者の様子をお手紙で知らせている。			
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親しい友人の面会は、感染予防の措置を講じて行なっているが、外出・外泊は控えている。	希望する馴染みの場所への外出は職員同行、または家族の協力を得ながら、支援している。引き続き、感染防止に留意しながら、柔軟な対応で関係が断たれないよう努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ホール中央にソファを置き、利用者同士の語らいの場となっている。レクリエーション活動を行える環境を作っている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	今までの関係はこれからも継続することを伝え、必要に応じて情報提供や相談等の支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者とコミュニケーションを図り、希望や意向を聞いている。また、コミュニケーションが困難な方には家族から情報を得て動作を観察するよう努めている。	職員は、ケア全般において定期的に検証しながら、利用者一人ひとりの思いや意向を聞き取り、応えるよう努めている。また、個々の誇りや個別性を損なうことのないよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用者や家族、知人からこれまでの暮らしぶりを聞き、その人らしい生活が出来るよう配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人の心身状況に合わせた生活に配慮できるよう、介護記録を活用して状態の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の心身状況や日々の生活での気持ちを尊重し、安心して生活できるよう、スタッフ一同が把握に努めている。また本人の変化が生じたときはその都度対応、検討・プランの修正を行っている。	本人、家族の希望を取り入れ、介護記録、職員によるモニタリングを基にカンファレンスで検討し、介護計画を作成している。状態の変化があれば、都度見直し、現状に即した計画となるよう努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	生活全般や健康状態を記載し職員で共有し、日々のケアの実践や介護計画見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の希望や家族の意向をその都度確認し、その時々状況に応じて支援している。通院や送迎なども柔軟に対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	感染症予防のため、地域やボランティアの受け入れは行なっていません。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前のかかりつけ医での医療を受けられるようにしている。また、本人や家族と相談しながら病状に応じた受診を行っている。	かかりつけ医は利用者と家族の意向で決定している。協力医療機関、訪問看護より随時助言を得て、体調面・支援方法について職員間で共有している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々のかかわりの中で健康状況や気づきをスタッフ一同で情報を共有し、早期発見、受診できるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した場合は、医療機関や家族との情報交換を蜜に取れるように努めている。また、職員も見舞いに行くことによって本人の安心に努めている		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方については、家族と十分な話し合いを行っている。また、急変した場合は、すぐ対応して頂けるよう医療機関とも連携を図り対応している。	重度化や終末期における対応は、契約時に文書で説明し同意を得ている。重篤となった場合は、医療機関へお願いしているが、本人や家族の希望により、可能な限り寄り添えるよう努めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	夜勤時の急変に対する連絡やマニュアルを整備し周知を図っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力により避難経路確認や消火器の使い方の訓練を行っている。	定例で火災・自然災害を想定した避難訓練を実施している。同法人の他サービス事業所や地域町内会との災害時の協力体制があり、相互の役割確認を行っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の気持ちを大事に考え、さりげないケアを行っている。また、ミーティングなどで利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応を図っている。	外国人雇用を行っている事から、特に接遇が介護の基本であることの理解に努め、トイレ誘導や入浴時の対応を丁寧に行う等、尊厳を損なう事のないよう支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせた言葉かけをし、些細なことでも自分で決められる場面をつくっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの状態や気持ちに配慮しながらその人に合った生活が出来るよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容院は本人の希望した時に出かけたり、服の購入を頼まれるなどその人らしい身だしなみに配慮して支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事をして好みを把握している。準備や片付けなども共に行い楽しい食事ができるよう心掛けている。	季節や馴染みの食材を取り入れ、利用者から嗜好を聞き取り、献立を作成している。行事食やおやつ等、外食気分を味わえる工夫で、食事が楽しみある時間となるよう努めている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりの一日の食事量や水分量を把握し、本人の好きなものや食べやすいものを出すように工夫している。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、利用者の気持ちに配慮しながら一人ひとりの力に応じた歯磨きの介助をしている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを記録し、見守り、時間を見ての誘導など、さりげない声掛けを心掛けている。	トイレでの排泄を基本として取り組んでおり、一人ひとりの排泄パターンやサインを共有し、水分摂取や運動を取り入れる等、自然な排泄となるように支援している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維の多い根菜を食事に取り入れ、水分を取りやすいように時間を制限せず、飲み物の味のバリエーションを考えている。体操や廊下を歩くなど身体を動かすよう心掛けている			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間を制限せず、ゆっくり入浴を楽しめるように配慮している。	デイサービスも実施しており、お風呂は毎日沸かしていつでも、だれでも入浴できる体制で臨み、毎日が入浴日、を実施している。そのため、一日の入浴者も少数で、ゆっくりと落ち着いた入浴支援となっている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中はなるべく活動できるようにレクリエーション等の声掛けをしているが、個々に合わせた休息も取れるよう支援している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の重要性をしっかりと理解し、職員もできる限り、目的や作用、用法、用量を把握するよう努めている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一緒に作業を行うなど、個々の役割や張り合いを持てるような環境づくりに努めている。			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	以前はドライブ等を行っていたが、感染症予防のため外出は行っていない。天気の良い日は施設周辺を散歩している。	緩和後は感染防止に留意しながら、散歩や買い物等、個別対応にて可能な限り、外出が出来るよう支援している。コロナ禍で自粛していた行事等、職員間で再開に向けて話し合っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を所持している方はいませんが、希望する物を購入することが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望があればその都度、電話利用できるよう支援している。要望があれば手紙の代筆を行うこともある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関先に花を飾ったり、季節感のある小物を置いたり廊下の空きスペースには写真や絵を飾り心地よく過ごせるよう務めている。	居間は広く明るく、採光も優れており、温度や湿度の管理も適性の実施されている。全体的に古民家風の造作で、やんわりと季節を感じられる工夫がなされている。新設された別棟のユニットも、若干の寸法の違いはあるものの、機能、利便性に優れた同様の佇まいとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者の関係性を考慮して、テーブルの席を配置している。利用者によっては、場所を移動して1人で落ち着いて過ごせる時間が出来るよう支援している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みのタンスや棚、飾り物など持参して頂き、なるべく自分の部屋の感覚が感じられるよう工夫している。	家族の協力を得て、本人の日常に馴染みある備品や家具、家族写真等を飾り、居室には洗面台が備え付けられ、心身の状況に合わせた居心地の良い生活環境となるよう、支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の部屋の前にそれぞれ自分の名前のプレートをさげ、分かりやすくし、トイレのドアに張り紙をしたり、お風呂には暖簾をかけたり、混乱のないよう支援している。		